

第3A（中）分科会 —教育環境整備に関する課題—

提案主題 保護者や地域に信頼される学校づくりの推進

司会者	津久見市立第一中学校	樋口 千恵美
提言者	津久見市立第二中学校	佐藤 文雄
助言者	日田教育事務所 次長兼指導課長	清松 今朝見
記録者	津久見市立保戸島中学校	一瀬 修一郎

1 討議の柱

地域と繋がる学校づくりのために、教頭はどのように取り組んでいくか

2 協議の実際（内容）

(1) 質疑応答

質問：学校運営協議会と学校との関わりやコミュニティスクール推進を通し生徒をどう育成していくか。

回答：学期に2～3回開催し、学校経営方針等の承認を得ている。地域の声に応える（将来的に地域に根ざす）生徒の育成を目指している。

(2) グループ協議の報告

- ・地域と学校が双方向で繋がるためには、教頭として連絡調整が大切である。また、学校運営協議会を組織として機能させていくためには、その人選も大事だと考える。
- ・コミュニティ担当や生徒会担当等の負担が大きくなってくる。従来との活動を繋げる役割が教頭にはあるのではないだろうか。
- ・「なぜ地域と繋がる必要があるか」との問いに対しては学校教育目標との関連において明確に答えるとともに、職員の意識改革が必要である（＝教頭の役目）。

3 指導助言

地域と繋がる学校、すなわち「信頼される学校」とは、児童生徒が成長する姿が見られ保護者や地域がそのことを実感できる学校である。そのために、以下の点について自校の取組を振り返ってみる必要がある。

- ① 外部からの受信情報の共有…外部からの情報が各教職員に止まることなく、管理職をはじめ全体で共有できているか。
- ② 教育活動の意義（目的）の共通理解…協働体としての家庭や地域が、学校の教育活動について「何を学ばせたいのか」「何のための活動か」を理解しているか。
- ③ 達成感の共有…活動を通して、生徒だけではなく家庭や地域も達成感が得られるものになっているか。
- ④ 自発的な活動…学校や地域の実態や解決すべき課題に対応した、自発性のある活動が展開されているか。
- ⑤ 学校からの発信内容の吟味…学級通信等に、児童生徒の育ちが見える内容が盛り込まれ、その先の「学校教育目標」が見通せる内容のものとなっているか。